成虫越冬種。西日本では余りとれないらしい。

4. カマフリンガ　Macrochthonia fervens Butler

1981年9月27日　1♂　字藍那

1983年8月 7 日　1♀　北区ひよどり台町

1983年8月11日　1♂　同　上

別に珍しい種ではないが新興住宅ひよどり台町では街路樹のケヤキに幼虫がついているのをよく見る。

5. アサマキシタバ　Catocala streckeri Staudinger

1983年5月28日　2♂♂　字藍那及び坂本

日本産Catocala属29種は大概暑い盛りに出るものだが，本種のみは新緑の候の出現する。1 ex.は小学校近くの灯火下で，他の1 ex.は丹生山へのハイキングコースのコナラ林で採集したものである。小生本種を1964年5月30日少し東方の字原野初田川で採集して以来20年目の再会であった。アムール系の種で西日本では他に滋賀，大阪，岡山，香川の諸府県より夫々一ケ所産地が知られている。

6. ネグロアツバ　Zanclognatha nigrobasalis Yamamoto et Sugi

1983年7月 6 日　2♂♂　字藍側

1955年山本義丸先生が杉繁郎氏と共著で氷上郡柏原町で飼育により得られた標本をタイプとして記載された種である。蛾類通信№70（1972）には西は柏原町から東は栃木・茨城県迄20ケ所の既知産地が記されている。藍那は兵庫県では2番目の産地ではないだろうか。幼虫は薊を食べ，採集場所は自動車道をくゞる地下道内なので，同所にやたらに多いホシオビコゲ同様そこで発生したものかもしれない。

神戸市周辺の蜻蛉目付記

松　本　健　嗣

本誌Vol.10 №2（1982）で神戸市周辺のトンボについて述べたが，これは過去にいたものであるが，当然語るべき重要な種を一つ逸したことに気付いた。またヤンマの産卵習性の説明に明らか

な誤りがあったので，訂正とともに今少しトンボについて話をさせて頂く。

まず，宝塚昆虫館には西宮市鳴尾V－1936のラベルのついたベッコウトンボの標本が所蔵されている筈である。採集者の柴田慶蔵氏（大阪市在住）には先年お会いし，当時の模様を聴く機会を得た。ベッコウトンボと言えば，加古川方面の低湿地，丘陵が多産地として知られていたが，本種は日本からは殆んど姿を消したとも言われ，残念ながらこの方面でも最早絶望的であろう。小生昨年5月，以前（1971年頃）多産した小野市鴨池，加西市志方七ツ池を訪れたが本種の姿は見られなかった。風致地区であり，環境は見たところ以前と少しも変っていないのだが。次にネアカヨシヤンマの産卵習性であるが，親メスはセリの茎に卵を産むと記したが，これは小生の思い違いでVol.10 No.1 に記されているコケ，湿土上に産卵すると言う田中稔氏の観察が正しい。小生の誤認を陳謝する。それからサラサヤンマについても泥上の枯板，ハンノキの根に産卵すると記したが，これは組織内ではなく，それ等に附着した土に産んでいたか，或いは産もうとしたが好的な物体でないので産まずに飛び去ったとも考えられる。更に六甲山系の渓流がムカシトンボの棲息に適しない理由の一つとして渓流の傍に親メスが卵を挿入するフキ，ワサビ等葉柄の長い草本が生じていないことを挙げたが，今年日本蜻蛉学会の方からムカシトンボは葉柄ばかりでなく，地表の苔に産卵することが最近判明したとのご教示を頂いた。お恥しい次第であるが，小生蜻蛉目の行動習性は大雑把にしか観ていなかったらしい。それになんと言っても神戸辺りでは上述のような珍しいトンボを観察できる場所は最早なくなってしまった。たゞアオヤンマだけは明石城やぐら北側の蓮池で今年の夏も沢山見た。

青蜻蛉　花の蓮（はちす）の胡蝶かな　　素堂

眼には青葉山ほとゝぎすの秀句で知られる，山口素堂（1642－1716）の作であるが，これはその晩年江戸深川の自邸で詠んだものといわれる。　　（1983－Ⅸ－16記）

伊丹市内におけるナガサキアゲハの採集および観察記録

新　家　　勝

1980年以降，阪神間各地におけるナガサキアゲハの採集が，新聞紙上で度々，報じられているが，伊丹市内のものはみられない。筆者は1982年5月9日に伊丹市昆陽池公園のタニウツギの花に1♂が飛来したのを目撃しており，今年は採集できることを期待して5月8日に同所を訪れた。ところが，タニウツギは剪定され，花が少なく，ナガサキアゲハは飛来していなかった。その帰途，同所の北北